

館林市立第四中学校 学校評価一覧表 ①

(様式1)

自己評価 A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満

羅 針 盤			方 策	自己評価①			自己評価②				
評価対象	評価項目	具体的数値項目		生徒	保護者	教師	改善策	生徒	保護者	教師	改善策
I 保護者との連携 教頭・教務	1 保護者への情報提供	①「学校や子供の様子が分かる」と答えている保護者が <u>80%以上</u>	①学校HP、スクールMailアシストと通知の併用による広報活動の充実を図る。	78	97 A	100	○生徒や保護者に、学校HPの周知をしていくとともに、C4thH&S等を利用し情報を発信していく。				
		②連絡メールやたより、学校HPなどから必要な情報が得られている保護者が <u>80%以上</u>	②学校HP、スクールMailアシストと通知の併用による広報活動の充実を図る。	88	98 A	100	○生徒や保護者に、学校HPの周知をしていくとともに、C4thH&S等を利用し情報を発信していく。				
	2 保護者への対応・学校への信頼	③学校は、「相談しやすい」と感じる保護者が <u>80%以上</u>	③学年・学級通信、相談室だよりを使って、気になることは気軽に相談するように、定期的に保護者に伝える。	66	86 A	100	○生徒や保護者に、SCや心の教育相談員の勤務時間や相談できる時間帯などをこれまで以上に周知していく。				
		④学校に安心して子どもを送り出すことができると感じる保護者が <u>90%以上</u>	④必要に応じて電話連絡や家庭訪問を実施することにより、保護者との信頼関係を築くようにする。	77	97 A	100	○教職員に、生徒指導の3つの機能を意識させていく。				
II 確かな学力 学びの教育部 学力向上Co	3 わかる授業づくり	⑤「意欲的に取り組んでいる」と答える生徒が <u>80%以上</u>	⑤授業公開などを通して、授業の工夫などを共有し合い授業力を高めていくことで、それぞれの教員が魅力ある授業作りを行う。	88 A	74	94	○授業計画シートの活用により、教師が重きを置く内容を明確化するとともに、工夫点を共有する。				
		⑥「授業が分かる」と答える生徒が <u>80%以上</u>	⑥めあて、振り返りを意識し、生徒が目的意識をもって授業に取り組めるようにする。	89 A	74	97	○学力向上Coを中心に授業の参観を行うことで、めあてと振り返り設定の意識を高めるとともに、生徒アンケートを実施し、結果を授業作りに反映する。				
	4 基礎的な知識・技能を定着させる授業づくり	⑦「自力で課題を解決できるようになった」と答えている生徒が <u>80%以上</u>	⑦ノートなどから生徒の学習状況を把握、評価し、その生徒に見合った指導を行うようにする。	86 A	82	88	○生徒の学習状況を見取る評価（ノート、単元テストなど）を通して、生徒の状態に見合った学習課題を提示する。				
		5 学習習慣の定着の工夫	⑧家庭学習や読書を自主的・計画的に平均1時間以上取り組める生徒が <u>80%以上</u>	⑧自主学習ノートを活用し、家庭での学習が定着するようにする。学習状況を見取り、学習方法や工夫などを助言する。なかなか定着しないせいに対しては、放課後の補習などで学習方法について具体的に助言を行う。	67 B	55	61	○授業の予習、復習などでも自主学習ノートを活用して、使用する機会を増やす。通信などを通して、学習のしかたを例示する。			

III 豊かな心 心の教育部 生徒指導 教育相談	6 いじめのない温かい人間関係	⑨「学校は悩みやいじめの解消に努めている」と答えている生徒が <u>80%以上</u>	⑨毎月の学校生活アンケートを実施し、悩みを抱える生徒には二者面談などを行っていく。また、生徒の生活の様子を細かく見ていき、積極的に声かけを行っていく。気になる生徒には教育相談部と連携を図って対応していく。	85 A	92	97	○学校生活アンケートの結果への対応のみだけでなく、普段から生徒の表情や学校生活の様子の変化を見ていき、積極的な声かけや面談を行う機会を設けていく。個や状況に応じて、教育相談部、家庭、外部機関との連携を図っていく。				
		⑩学級が居心地がよいと感じている生徒が <u>80%以上</u>	⑩学級活動では生徒が主体となる活動の場を設定し、プラスの評価をしていく。また、エンカウンターやアサーショントレーニングを積極的に取り入れ、生徒同士が理解し合える人間関係を構築できるような授業実践を行っていく。	83 A	90	74	○少ない学級活動の時間を有効かつ計画的に活用し。エンカウンターやアサーショントレーニングを行い、生徒同士が人間関係の構築を図れる機会を増やしていく。ストレスチェックやQ-Uの結果を活用し、一人一人にきめ細かな対応をしていく。				
	7 あいさつや時と場に応じた適切な言動をとることのできる生徒の育成	⑪進んであいさつをしたり、正しい返事ができる生徒が <u>80%以上</u> 。	⑪教師側が生徒の模範となるように、積極的に挨拶を行っていく。生徒会や生活委員による毎週の挨拶運動を継続していく。朝の健康観察では生徒一人一人呼名を行い、粘り強く返事をさせていく。	93 A	90	81	○生徒主体の挨拶運動を継続して行い、教師が見本となり、挨拶を推進していく。返事の場面では粘り強く返事をさせていく。				
8 規範意識に基づいて判断し行動できる生徒の育成	⑫学校や家庭のきまりや約束を守って生活している生徒が <u>80%以上</u>	⑫教員間で共通理解を図り、教師側のぶれない指導を軸に良いことは褒め、悪いことは徹底して悪いと指導する態度を示す。職員全体で生徒が自ら考え行動できるような指導をしていく。	94 A	89	94	○全職員で共通理解を図り、ぶれない指導を徹底し、複数の教員で対応してしていく。全職員で個に応じたきめ細かな指導を実践していく。					
IV 進路・生き方 進路指導 特別活動	9 進路学習や指導態勢の充実	⑬学級活動における進路学習や総合的な学習の時間などの体験活動を通して自己の生き方を考えている生徒が <u>80%以上</u>	⑬3年間のキャリア教育を見通して、生徒が主体的に自己の生き方や進路選択を考えられるような指導や働きかけを行う。	77 B	79	71	○学級活動や総合的な学習の時間だけでなく、様々な教育活動と関連付けながら、キャリア教育を行い、主体的に考えられるような工夫をしていく。				
	10 将来の夢や希望を育むこと	⑭将来の夢や希望する進路について親子で話し合っている生徒が <u>80%以上</u>	⑭定期的に生徒、保護者と二者面談や三者面談を実施したり、全学年でキャリア教育に関する通信を発行したりするなど、進路に対する意識を高める働きかけを行う。	70 B	79	77	○3年生に限らず、全学年を対象に進路希望調査を実施したり、キャリア通信を発行したりするなどして、親子で将来に関する話し合いをするきっかけを作っていく。				
V 健康・体力 体の教育部 保健	11 基本的生活習慣の定着	⑮朝食をとっている生徒が <u>90%以上</u>  ⑯十分な睡眠時間を確保している生徒が <u>90%以上</u>	⑮⑯朝食摂取や睡眠の大切さを示し、よりよい生活リズムの大切さを学級活動や給食指導、学校行事、部活動指導等様々な機会を捉えて、継続的に指導をしていく。	93 A  81 A	97	75  91	○保健だよりで生活リズムに関する内容を取り上げたり、生活を振り返るチェック欄を設けたりして、配布と共に指導の機会を設定していく。				

	12 体力向上	⑰体を動かす工夫をするなど運動（部活動・体育の授業を含む）や地域のスポーツ活動などに取り組んでいる生徒が <u>80%以上</u>	⑰生徒が、運動を楽しんで活動することで、体力向上につながるができるように、活動するグループ内の人間関係や活動場所の環境を整備すると共に、教員同士や地域のスポーツ組織と連携をとる。	80 A	78	94	○生徒が運動を楽しめるように、授業や部活動での人間関係や活動場所の環境整備を整えていく。そのために、教員間で連携をとっていく。				
VI 安全確保 安全	13 学校の安全対策	⑱「学校は安全である」と感じている生徒・保護者が <u>80%以上</u>	⑱毎月の安全点検を行うとともに、日々の授業や部活動等で気がついた修繕箇所などはその都度報告をすることを促し、早急に対応していくよう努める。	78 B	94 A	97	○生徒に安全に安心して学校生活を送ってもらうために、引き続き安全点検を行うとともに、先生方の気づいた修繕箇所や生徒の声に早急な対応を心がけていく。				
	14 地域の安全対策	⑲安全に通学できるよう、交通ルールに気をつけて登下校できる生徒が <u>100%</u>	⑲日々の短学活や道徳等の授業、行事等の特別活動などを通して、交通安全の意識を高められるように、生徒に継続的に啓発していく。	98 B	97	94	○生徒の交通安全の意識を高め、安全な登下校ができるように、引き続き短学活や道徳等の授業、行事等を通して交通安全を啓発していく。				
	15 感染症対策 保健・教務	⑳学校の感染症対策が適切に行われていると感じる生徒・保護者が <u>80%以上</u>	⑳感染対策については、生徒や学校の実態や流行状況に応じて、改善を重ねていく。また、学級や学年、部活動等、様々な活動を通して、繰り返し指導したり、啓発を行って行く。	97 A	97 A	97	○感染対策については、生徒や学校の実態や流行状況に応じて改善を重ね、なぜそうすることが大切なのか、必要性を含めた指導を継続していく。				
		㉑休校期間の学習支援は適切であったと感じる生徒・保護者が <u>80%以上</u>	㉑スタサプを活用した復習や反転学習、さらにプリント等の活用により、継続した学習が行えるよう各教科で計画を立て、実施していく。	80 A	78 B	84	○生徒が主体的に取り組めるよう、スタサプやプリントを利用し、個に応じた課題配付を各教科で進めていく。				
VII 組織運営 教頭	1 学校経営の協働参画システムの構築	㉒「組織の一員としての自覚をもって担当の校務分掌に意欲的に取り組み、職員の理解や協力が得られている」と答えている教職員が <u>80%以上</u>	㉒校務分掌が見える化（声かけ、称賛など）し、担当の分掌への自覚を高め、やりがいを持てるようにする。			94	○1学期の自分の分掌を振り返り、課題があれば1つでも解決できるよう施策を考える。また、2ヶ月先をみて、担当の分掌を進めるよう助言する。				
		㉓「職員会議や学年会議等が情報交換や課題検討の場として機能している」と答えている教職員が <u>80%以上</u>	㉓会議の効率化と共通理解を深めるために、事前に関係者の打ち合わせを推進していく。また、事前に周知し、必要な意見交換に時間をかけられるようにする。			94	○早めに、準備するよう声かけをしていく。				
		㉔「教職員間の相互理解が十分なされ、信頼関係に基づいた教育活動を行っている」と答えている教職員が <u>80%以上</u>	㉔職員が明るく元気に仕事ができるように、学年主任等の運営委員に、目配り、気配り、心配りするよう依頼する。			97	○主任と積極的に連携し、主任のリーダーシップのポイントなどを声かけしていく。				

	<p>④「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に話し合える職場の人間関係ができています」と答えている教職員が80%以上</p> <p>⑤「教室内外の環境整備に向けて努力している」と答えている教職員が80%以上</p> <p>⑥「この職場は、教職員の服務規律確保への自覚が高い」と答えている教職員が80%以上</p>	<p>④当初の人事面談において、「公私ともに伝えておきたいことがありますか」などと投げかけ、気軽に相談できる体制づくりををしていく。</p> <p>⑤授業参観を通して、気付いたことを声かけするとともに、管理職が積極的に玄関などの整理整頓をしていく。</p> <p>⑥月末に服務規律チェックリストを提出させ、服務の意識が継続できるようにする。また、「制限速度を守ろう」などと、気軽に声かけし合える雰囲気を作る。</p>	94	○当初面談で相談されたことや、その後相談されたことについて、適切なタイミングに声かけし、いつでも相談できる雰囲気を作っていく。			
			91	○環境整備の意識が継続できるよう、管理職の積極的な環境整備はもとより、職員の報告に耳を傾け、速やかに対処していく。			
			88	○人権週間に生徒に対する言動の点検、また月はじめに重点項目を管理職から知らせて、意識の高揚を図る。			
2 学習指導・生徒指導の推進	<p>⑦生徒一人ひとりを大切にした授業づくりや生徒との信頼関係づくりに努めている教職員が100%</p> <p>⑧「積極的に授業を見合い、互いに学び合うことによって自分の授業作りに生かしていると答えている教職員が80%以上</p>	<p>⑦単位時間毎にねらいに即した明確な「めあて」を生徒全員に共有させるとともに、授業後半には「振り返り」の時間を設ける。</p> <p>⑧教科部会内での授業公開を積極的に行うとともに、授業参観励行月間を設け、自身の担当教科以外の授業も参考にしながら授業作りに取り組める環境を作る。</p>	97	○授業計画シートの作成により、「めあて」と「振り返り」の関係性を今まで以上に意識することで、ねらいに即した授業づくりを行う。			
			78	○教科部会内での授業公開に加え、学力向上Coを中心に授業の参観を行うことで、授業を見合い、互いに学び合う授業づくりを行う。			
3 公文書や個人情報等の情報の適切な管理	<p>⑨「各種文書・データ等は、校務分掌や担当ごとに適切に管理されている」と答えている教職員の80%以上</p> <p>⑩「個人情報が確実に保護され、管理が徹底されている」と答えている教職員が80%以上</p>	<p>⑨フォルダを統一の形式で分掌/学年分けしたり、C4thの掲示板・個人連絡機能を活用したりして、必要な担当に必要な情報を情報交換することができるようにする。</p> <p>⑩緊急連絡先・成績等の個人情報の所在をはっきりし、施錠を確実に行う。また、毎月の服務規律確認に併せて個人情報に関する点検を行う。</p>	88	○長期休業期間に不要なファイルの整理を行う期間を設け、主任・管理職から定期的に管理するタイミングを持つ。			
			94	○職員室内の日頃の整理・整頓を心がけ、使用後は速やかに返却する。 ○毎月の服務規律チェックでの確認を継続し、管理意識の維持高揚を図る。			
4 感染症対策	<p>⑪「この職場は、教職員の感染症対策への自覚が高い」と答える教職員が90%以上</p>	<p>⑪流行状況に応じた情報や対策を共有し、全職員の意識を高めていく。</p>	88	○教職員に、「感染症対策のチェックリスト」で、1学期の対策を点検させ、感染症対策が不十分な部分があれば、改めて対策を講じていく。			